

平成 28 年度  
公民館事業関連新聞記事

事業名 公民館音楽会  
 六車智香おしゃべりコンサート  
 開催日 平成28年5月11日(水)

2016年(平成28年)5月12日(木)

毎 日 新 聞

# 復興への思い 歌で

熊本出身のソプラノ歌手、六車智香さん(芦屋市)による「六車智香おしゃべりコンサート」が11日、芦屋市業平町8の芦屋市民センターナ・ホールで開かれた。コ

ンサートは約1年前から予定していたが、熊本地震が発生したことを受け、急きよ被災地への義援金を呼びかけるチャリティコンサートとして開いた。【石川勝義】

熊本出身の歌手・六車さん 芦屋でコンサート



チャリティコンサートで歌声を披露する六車さん—芦屋市で

## 「少しでも力になりたい」

六車さんは熊本県水俣市出身で、大阪音楽大学音楽科を卒業。現在は「六車智香 声楽の会」を設立し、毎月第1と3水曜日に芦屋市立公民館の公民館講座で歌を教えている。

この日のコンサートでは、クラシックの「歌の翼に」やオペラの「ラ・ボエーム」などを披露。自身が熊本出身で、熊本市内に住む叔父の自宅が半壊したことなどに触れ、「熊本の状況を伝えるテレビの前でじっとしていると、涙が止まらなかつた。少しでも力になりたい」と思い、義援金の箱を置かせてもらった」と述べ、寄付を呼びかけた。

集まった寄付金は日本赤十字社を通じて被災地支援に役立てられる予定。六車さんは「皆さんから『チャリティコンサートにしては』と提案していただき、ありがたくお受けした。少しでも熊本の力になればうれしい」と話した。

# 音楽で熊本支援訴え

## 声優 六車さんコンサート

熊本県出身の音楽家、六車智香さんによるコンサートが、芦屋市兼平町のルサ・ホールで開かれ、六車さんが熊本地震の被災地への支援を呼びかけた。

コンサートは同市立公民館が主催。阪神間で活躍する六車さんが熊本県水俣市出身ということから、急ぎ

熊本県出身の音楽家、六車智香さんによるコンサートが、芦屋市兼平町のルサ・ホールで開かれ、六車さんが熊本地震の被災地への支援を呼びかけた。

コンサートは同市立公民館が主催。阪神間で活躍する六車さんが熊本県水俣市出身ということから、急ぎ

述べ、公演後は募金箱を置いたロビーに立った。

# 事業名 平和事業 (展示)

阪神間文学に見る 大戦下の街と暮らし

開催日 平成28年7月16日(土)～8月15日(月)

毎日

2016年(平成28年)8月13日(土) 阪神 尼崎

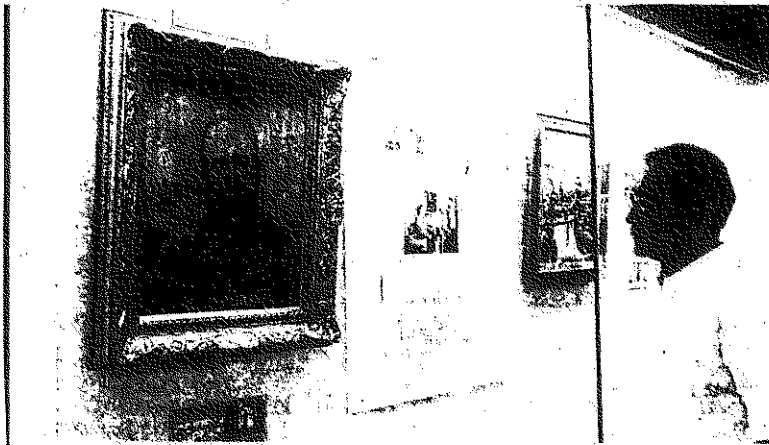
兵庫

24

## 戦時下の暮らしを知る

### 芦屋 阪神間文学集めた企画展

太平洋戦争中に阪神間に住んだ作家の文章から、戦時下の暮らしを読み取る企画展「阪神間文学にみる大戦下



企画展「阪神間文学にみる大戦下の街と暮らし」で展示されているブスケ神父の肖像画＝芦屋市民センターで

の街と暮らし」が、芦屋市業平町8の芦屋市民センターで開かれている。15日まで。

展示では野坂昭如や

お仏壇・墓石から  
ギフトまで...  
**浜屋**  
フリーダイヤル  
0120-1616-94  
http://www.hamaya.co.jp/

遠藤周作、小松左京、須賀敦子などの作品を取り上げた。夙川カトリック教会(西宮市)や、戦時下でも営業を続けた喫茶店「ラ・パボーニ(西宮市)」などについては複数の作家が言及したり、通ったりし、関心を集めていたことがうかがえる。野坂は「ひとでなし」の中で、1943年にスパイ容疑で逮捕され死亡した夙川カトリック教会の創立者、シル

2016年(平成28年)8月12日(金曜日)

平和

文学作品や絵を通して平和について考える企画展が、芦屋市業平町の市民センターで開かれている。カトリック夙川教会(西宮市)の初代神父で、戦時中に連行されて命を落としたシゲベンのブスケ神父の肖像画などが並ぶ。15日まで。

### 絵画など通し 平和を考える

芦屋で企画展

ベン・ブスケ神父(1877～1943)に触れた。実際には逮捕後間もなく亡くなったが、憲兵が教会側に事実を伏せるよう要請。1945年7月に解放されたと記述している。遠藤も、夙川教会

や川西航空機宝塚製作所(宝塚市)での空襲体験をつづった。小松は空襲で国鉄や私鉄が止まり、神戸から芦屋や西宮まで歩いた経験を書いている。

展示を担う来日し、1920年代に同教会を創立。のちに大阪の教会に移り、戦時中の43年、憲兵に連行され、帰らぬ人となった。肖像画は生前に交流のあった画家の大石輝一さんが61年に描いた。個人が保管しており、普段は公開していないと

このほか、終戦の年を阪神間でも過ごした作家の遠藤周作さん、野坂昭如さんらが、当時の暮らしを描いたエッセイなどもパネルで紹介。遠藤さんは作品の中で、宝塚市での空襲の様子を「列車の通りすぎるよう

な鋭い響きと地響きの私には工場を燃やす炎とを見た」と回想している。午前9時～午後9時入場無料。13、14日は休問い合わせは同センター(0797・31・499)へ。



展示されたブスケ神父の肖像画(芦屋市で)

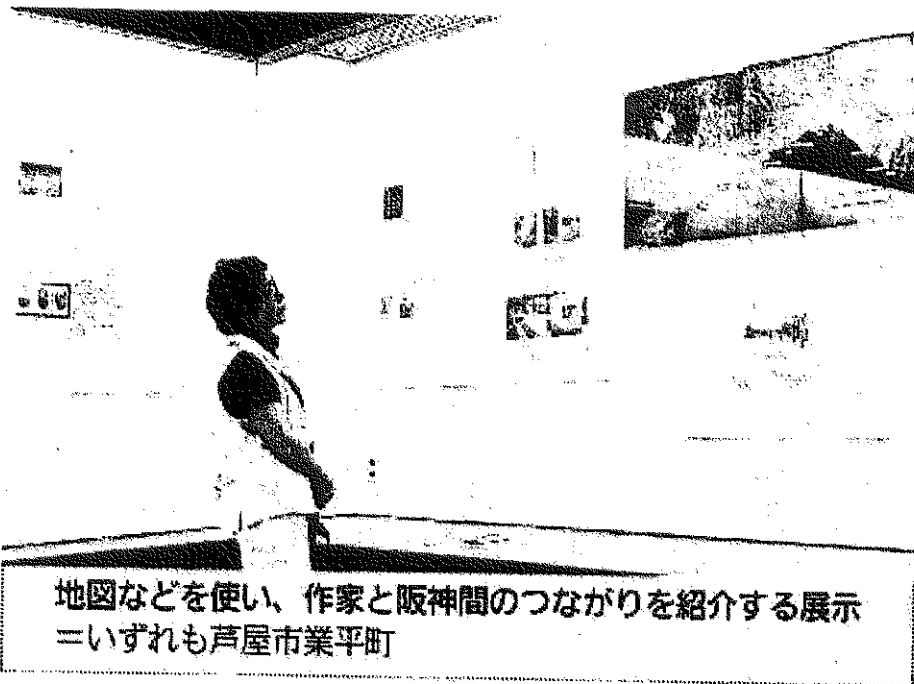
# 野坂昭如さん、遠藤周作さん…

作家の野坂昭如さんや遠藤周作さんらの作品を通し、戦争を学ぶ平和展「阪神間文学にみる 大戦下の街と暮らし」が16日、芦屋市民センターで始まった。計16作品に登場する戦時中の阪神間の様子などを、シーンの抜粋や当時の写真などで紹介する。  
(土井秀人)

## 文学作品通し戦争学ぶ

芦屋市民センター

芦屋市など主催。8月15日の終戦の日を含む戦時中、阪神間には



地図などを使い、作家と阪神間のつながりを紹介する展示  
＝いずれも芦屋市業平町

### 16作品 描写の抜粋や写真展示

著名な作家が多く暮らし、その体験は作品に反映されている。例えば遠藤さんは、川西航空機宝塚製作所の空襲を目撃。小説「黄色い人」に、その体験を基に描かれたシーンを登場させている。

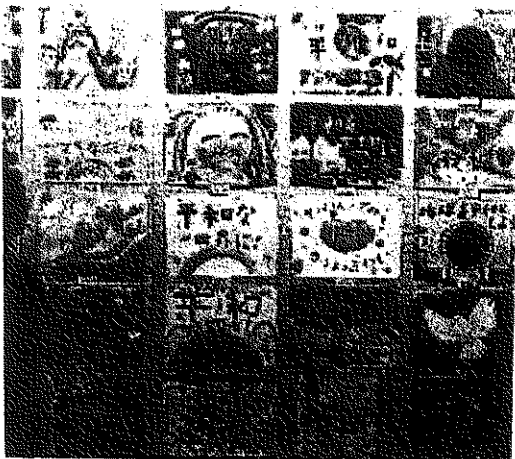
野坂さんは神戸大空襲などの体験を「ひとでなし」「わが桎梏の碑」で描いた。随筆家須賀敦子さんやSF作家小松左京さん、イラストレーター黒田征太郎さんらの作品も並び、多様な作家と阪神間とのつながりも知る事ができる。このほ

学生が描いた  
平和ポスター

### 児童の平和ポスター展も

か、カトリック夙川教会の創設者で、憲兵に逮捕されて命を落とした「ブスケ神父」の肖像画も展示している。また同センターでは、小学生が描いた平和ポスター展も開催している。いずれも8月15日まで。

はんしん  
戦後71年



# 事業名 平和事業 (講演会)

ブスケ神父と大西輝一画伯の友情

開催日 平成28年8月6日 (土)

## 戦争末期、西宮の教会で布教

# 沈黙貫いた神父 獄中記「初公開」



アルフレッド・メルシ神父

戦時中、スパイ容疑で捕囚を受けたカトリック夙川教会(西宮市夙川)の主任司祭アルフレッド・メルシ神父(1905-77年)が「獄中記」を残していた。同教会の建堂80周年記念誌(2015年)で初めて明らかになった。同教会で閲覧でき、知られざる戦争の証言に、教会外からも関心が寄せられている。

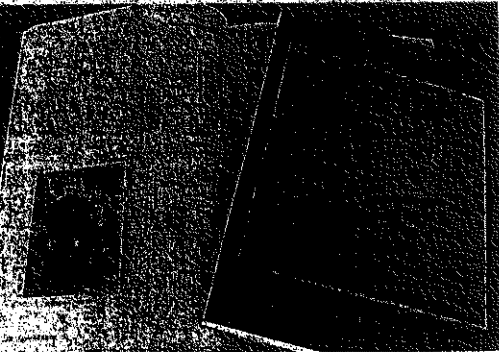
田中真治

アルフレッド・メルシ神父

## 仏側スパイ容疑、3カ月拷問

神父は1945年5月7日、尼崎の憲兵隊に連行され、終戦まで自由を奪われた。体験を綴った「獄中記」は、お前を生涯の証として残したが、パリ外国宣教会の求めに、部外秘を条件として報告書を提出し、空襲やシラカバ出、没後30年以上たったナキンムンに苦しめられた。「もしも戦争があと数カ月長引いていたら、私は航走を命ぜられた」との容疑を命ぜられたとの容疑を神父は解放後、訪ねてきた一人の憲兵から否定すると、棒で殴るなどの暴力を加えた。つたと告げられた。つとと同教会の梅原彰司神父(78)は話す。梅原は「西宮市で腹はいたさずとも、信者たちが救出に奔走したことも知られ、メルシ神父の容疑は研究員(66)に西宮市1ツで腰を痛めつけ、心を持たれた。重国と沈黙については、同教会で洗礼を受けた作」に処される方が主議の過ちを許し、沈黙教会で洗礼を受けた作

神父は1945年5月7日、尼崎の憲兵隊に連行され、終戦まで自由を奪われた。体験を綴った「獄中記」は、お前を生涯の証として残したが、パリ外国宣教会の求めに、部外秘を条件として報告書を提出し、空襲やシラカバ出、没後30年以上たったナキンムンに苦しめられた。「もしも戦争があと数カ月長引いていたら、私は航走を命ぜられた」との容疑を命ぜられたとの容疑を神父は解放後、訪ねてきた一人の憲兵から否定すると、棒で殴るなどの暴力を加えた。つたと告げられた。つとと同教会の梅原彰司神父(78)は話す。梅原は「西宮市で腹はいたさずとも、信者たちが救出に奔走したことも知られ、メルシ神父の容疑は研究員(66)に西宮市1ツで腰を痛めつけ、心を持たれた。重国と沈黙については、同教会で洗礼を受けた作」に処される方が主議の過ちを許し、沈黙教会で洗礼を受けた作



カトリック夙川教会建堂80周年記念誌に、25ページにわたり掲載されたメルシ神父の獄中記

に見る大戦下の街と暮らし」展を企画したことをきっかけに、記念誌編集委員の五藤真理為さんから報告書の存在を知られた。「戦後数十年たってようやく明らかになった重い事実で、広く伝える義務がある」と遠沼さん。今回の展覧では、同じく連行された命を落とした同教会創立者シルヴァン・ナスケ神父に込められたメッセージを込めて、父についても今後取り上げたい」と遠沼さんは話す。同展は15日まで、6日午後2時から同センターで五藤さんの講演会がある(自由参加費0人)。無料。同センター079077・35・0700

事業名 夏休み子ども教室

和楽器 小鼓教室

開催日 平成28年8月3日(水)

小鼓教室

毎日新聞

関連ニュースはこ

小学生の元気な音響く 芦屋 / 兵庫

毎日新聞 2016年8月9日 地方版

兵庫県 芸術・文化 カルチャー



元気いっぱい小鼓の演奏をする児童ら＝兵庫県芦屋市立公民館で、山本未来撮影

[PR]



芦屋市業平町8の市立公民館は3日、夏休みを活用して伝統芸能に触れてもらおうと「小鼓(こつづみ)教室」を開き、小学生15人が参加した。能楽師大倉流小鼓方の大倉源次郎さんらが講師となり、小鼓が桜の木と馬の皮で作られていることや、「ホ」や「タ」といった言葉で表現される音の種類、打ち方、かけ声などを教わった。最後に、五穀豊穡を祈る能楽「三番三(さんばそう)」の一部を演奏。1年生の加納小鶴(こつる)ちゃん(6)は「重たかったけど、いい音がして楽しかった。習いたい」と話した。【山本未来】

〔阪神版〕

事業名 会下山遺跡発掘 60 周年記念シンポジウム  
 会下山遺跡と高地性集落の謎  
 開催日 平成 28 年 8 月 20 日 (土)

神戸新聞 2016年07月27日 水曜日 面名 阪神 1 4 27ページ

弥生の会下山遺跡テーマに

来月20日シンポジウム

芦屋

でも先進的なムラであ  
 ったとみられるとい  
 う。

弥生時代に築かれた 掘調査が開始され、60  
 高地性集落跡「会下山」年に県史跡に、201  
 遺跡「芦屋市三条町」1年には国史跡に指定  
 をテーマにしたシンポ された。

ジウム「会下山遺跡と 斜面全域に遺構があ  
 高地性集落の謎―弥生 り、竪穴住居や祭場  
 人はなぜ山の上に住ん 跡、堀跡などが出土。  
 だのか」が8月20日、 大規模な集落が300  
 芦屋市民センター「ル 年近くの長期間にわた  
 ナ・ホール」(業平町) って営まれ、流通の面  
 で開かれる。

同遺跡が発掘調査か 午後1時から。無料。  
 ら60年、国史跡に指定 定員600人。申し込  
 されてから5年を迎え みは8月5日必着で往  
 たのを記念して企画。

会下山遺跡は、六甲 復はがきに、住所、氏  
 山の尾根や斜面に広が 名、年齢などを書き、  
 る弥生時代の高地性集 〒659-0068  
 落で、

芦屋市業平町8の24、  
 芦屋市公民館(☎07  
 97・35・070  
 0)に郵送する。



芦屋・会下山遺跡発掘60年シンポ

# 弥生人の生活様式探る

## 歴史学者5人が白熱討議

弥生時代に築かれた国史跡「会下山遺跡」（芦屋市三条町）の発掘60年を記念したシンポジウムが20日、同市兼平町のルナ・ホールで開かれた。「弥生人はなぜ山の上に住んだのか」をテーマに、5人の歴史学者が白熱した議論を繰り広げた。

（前川茂之）

同遺跡は、山の斜面 跡などが出土した高地 年に発掘調査が始ま

から堅穴住居や祭場 性集落跡で、1956 011年には国史跡に

指定されている。シンポではまず、第

1次調査に参加した石

野博信・県立考古博

物館名誉館長が講演。

「炎天下の中、上半身

裸になって必死に掘っ

た思い出がある」と振

り返った後、祭場の構

の見方を示した。

これに対し、石野名

館長が反論。「山を

歩き回った経験から、

会下山に大規模な集落

があったように見え

ない。周辺集落との関

連も含め、もっと調査

を尽くすべきだ」と意

見し、来場した約52

0人の歴史ファンらも

とした上で、食糧が乏

しく高地形集落に、食

糧を供給していた低地

帯が占まっていたと考

えてきた。

パネル討論では、遺



会下山遺跡の遺跡などについて議論する第1回 芦屋市兼平町

事業名 秋の公民館講座 開講記念講演会  
 ル・コルビュジエとライト建築と芦屋  
 開催日 平成28年10月6日(木)

(第3種郵便物認) 毎 日 新 聞 平成28年8月27日(土)

| 天気    |       | 週間天気  |       |
|-------|-------|-------|-------|
| きょう   | あす    | あす    | 土 日   |
| 33/27 | 34/27 | 30/27 | 30/27 |
| 33/27 | 34/27 | 30/27 | 30/27 |
| 30/23 | 34/27 | 30/27 | 30/27 |

建築家・コルビュジエの弟子設計

評価高まる芦屋市民センター



柱を連続した並行窓が特徴的な芦屋市民センターの外観

建築家ル・コルビュジエが手がけた国立西洋美術館(東京都台東区)などの建築作品が新たに世界遺産に登録され、コルビュジエの日本の弟子の手になる芦屋市民センター(芦屋市業平町8)にも建築学者らを中心に注目が集まっている。「石川勝義」

センターは弟子の坂研究所が設計を手掛けて、登録(1900〜69)おり、コルビュジエの設立した坂倉建築研 作風が色濃く表れている。



厚い壁を生かした飾り窓が並ぶ廊下

窓連続 芸術作品用飾り窓…影響凝縮

る建築の「つとさ」を凝縮した「サヴォア邸」は、厚い壁や小さい窓など、この五原則が特徴で、近代建築の五原則として、一階が柱付けのピロティ、二階が自由な平面、自由な立面、水平連続窓、屋上庭園の五原則を挙げている。壁ではなく柱で建物を支えることで自由に間取りを決めることができたり、大きな窓を配置できたのが特徴。世界遺産に登録された「サヴォア邸」など、厚い壁を生かした飾り窓が設けられている。また、廊下沿いに飾り窓が並ぶ様子には「ロシヤンの礼拝堂」に似る。三宅准教授は「コルビュジエ建築の影響が凝縮された建物だ」と評価する。三宅准教授は10月に市民センターで講演会を予定しており、「コルビュジエとの接点や、建築の価値を知ってもらう機会にした」と話している。

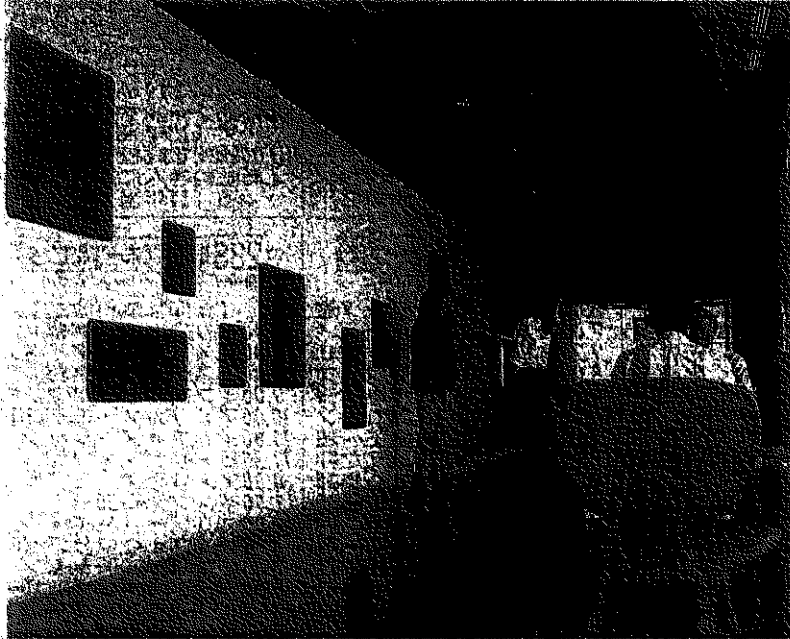


邸宅や教会などが立ち並ぶ芦屋川沿いで一際目立つコンクリート打ちっ放しの建物。市民活動や講演会などが催される芦屋市業平町の芦屋市民センター本館と大ホール(ルナ・ホール)は、建物そのものにも見所が多い。いずれも日本を代表する建



芦屋川沿いに立つ芦屋市民センター。右が本館、左が大ホール

### 芦屋市民センター



ル・コルビュシエの建築を連想させる飾り棚のある本館の廊下。黒を基調とした床や天井などに白線が走る大ホール(いずれも芦屋市で)

## こだわりの空間 随所に

建築家・坂倉準三の事務所の設計で、建築ファンがよく訪れている。坂倉は世界遺産への登録が決まった国立西洋美術館(東京)の設計で知られるル・コルビュシエの弟子で、同美術館の建設にも携わった。1968年に開館した本館は、建物を支柱で持ち上げる

構造や、自然光を採り入れたデザインなど、同美術館に通じる特徴がある。「建設当時は斬新すぎて違和感があった」と話す市民もいるが、今では芦屋らしい景観として親しまれている。「コルビュシエの建築を連想させる」と、建築ファンたちには人気なのが廊下だ。大小

さまざまな飾り棚が埋め込まれた白い壁は、形の異なる窓を壁に配置したコルビュシエの代表作、ロンシャンの礼拝堂(フランス)を思わせる。芦屋市出身の三宅正弘・武庫川女子大生活環境学部准教授(都市計画)は「コルビュシエの建築にみられる様々な特徴を、一つの建物で見

ることが出来る面白い場所」と話す。一方、70年に開館し、演劇やライブなどが催される大ホールのホワイエ(ロビー)は、黒い床や壁、天井を貫くように横切る白い線が目を引き、芦屋を拠点に活動し、世界的に知られた前衛美術グループ「具体美術協会(具体)」のリーダー・吉原治良が手がけたもので、斬新なアイデアにあふれた空間は、訪れた人々たちを非日常の世界へと誘う。

舞台や客席は黒で統一。センターによると、落語家の桂米朝はかつて、ホールで初めて独演会を開き、地獄が舞台の演目を披露した際、「何やこのホールは薄暗くて、地獄の二丁目のような気になるところや」と述べたという。本館の多目的ホール前には、具体のメンバーで、画家の白髪一雄が手がけた抽象画「芦屋」が飾られている。自然豊かな風景を思わせる緑が基調の作品で、今年新たに修復された。作品の前では、年配の人が世間話をしたり、子供たちが遊んだり。高田浩志センター長は「魅力的な建物や芸術に気軽に触れてもらえる場所。インテリアも含めていろんな見所を楽しんでもらえたら」と語る。

随所にこだわりが詰まった空間は、開館から半世紀が過ぎた今も、人々の日常にやさやかな彩りを添えている。(藤本幸大)

# 兵庫

神戸支局 神戸市中央区栄町通4の3の5  
〒650-0023 ☎078(371)3221  
FAX078(371)7615  
kobe@mainichi.co.jp

阪神支局 尼崎市東難波町5の16の29  
〒660-0892 ☎06(6482)1221  
FAX06(6482)5456  
hanshin@mainichi.co.jp

【主な通信部】丹波通信部 079(552)0388  
【購読問い合わせ】 0120-468012

姫路支局 姫路市三左衛門堀東の町102  
〒670-0949 ☎079(282)1221  
FAX079(288)2330  
himeji@mainichi.co.jp

豊岡支局 豊岡市元町10の6  
〒668-0026 ☎0796(22)6331  
FAX0796(23)5188  
toyooka@mainichi.co.jp

淡路支局 洲本市本町3の1の40 〒656-0025  
☎0799(22)1360 FAX0799(24)1360

星の占い  
マーク・矢崎  
30日

★牡羊座 (3・21~4・19) お人よしにな  
りそう。甘い言葉にだまされぬよう注意。  
★牡牛座 (4・20~5・20) 褒められる事  
あり。ただし、おだてに乗るとトラブルも。  
★双子座 (5・21~6・21) リズムに乗れ  
ないとき。体調の変化に注意すること。  
★蟹座 (6・22~7・22) あいさつが信  
頼を作る鍵。笑顔が異性の評判を集めます。

★獅子座 (7・23~8  
悪いとき。浮かないよ  
★乙女座 (8・23~9  
の好奇心旺盛。最新ス  
★天秤座 (9・23~10  
いとき。買い物で足元を  
★蠍座 (10・24~11  
そう。一歩引くことで

主催する宝塚市文化財団が「地元の良さを見直してもらう良機。知恵を絞って継続したい」と語るように、史跡を巡るイベントや講座と連携させるなど工夫を凝らし、公式テキストも出版されて、「合格者の集い」では豪華景品が当たる

「神戸学検定」も「赤穂『忠臣蔵』検定」も昨年で終了した。一時的ブームで終わるケースが多いなか、第8回を迎える「宝塚学検定」が根強い人気を保っている。

「神戸学検定」も「赤穂『忠臣蔵』検定」も昨年で終了した。一時的ブームで終わるケースが多いなか、第8回を迎える「宝塚学検定」が根強い人気を保っている。

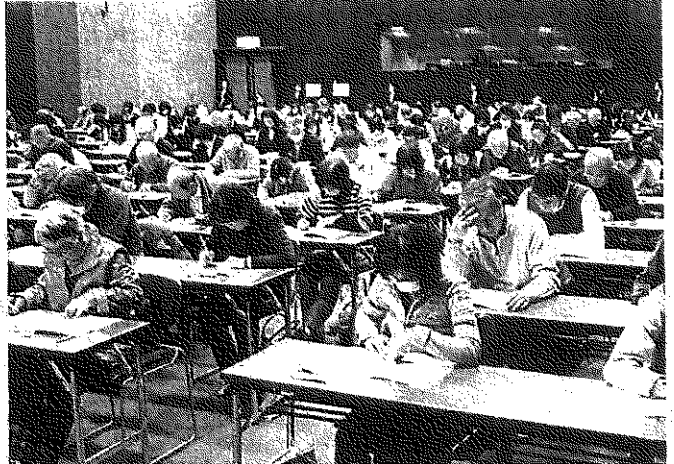
最盛期の2009年には全国で135件あった「当地検定」が、13年には77件に減少したという(NPO法人「全国検定振興機構」)。「神戸学検定」も「赤穂『忠臣蔵』検定」も昨年で終了した。一時的ブームで終わるケースが多いなか、第8回を迎える「宝塚学検定」が根強い人気を保っている。

「神戸学検定」も「赤穂『忠臣蔵』検定」も昨年で終了した。一時的ブームで終わるケースが多いなか、第8回を迎える「宝塚学検定」が根強い人気を保っている。

## 河内 厚郎の文化回廊

抽選会がある。私も問題作成に関わってきたが、要は主催する自治体サイドが「本気」かどうかだ。大都市圏の自治体では、自分が働く町の文化をよく知らない職員も少なくないのだ。

芦屋市で長年にわたる広報を担当した南ゆう子さん(芦屋エネス協会常任理事)は写真裏が音頭を取り、「芦屋の歴史・文化を語り継ぐ会」を、月に一度、市庁舎で開いている。対象者はOB



たくさんの受験者がつめかけた昨年の宝塚学検定



南ゆう子さん

・再任用・臨時職員・嘱託職員を含む市職員で、芦屋の町づくりや会下山遺跡(国の史跡)、小出権重や貴志康一などモダンズム期の芸術家群像、在原業平や富田碎花ら地元ゆかりの文学等を取り上げてきた。その思いを南さんは「市民が大切にしてきた芦屋の歴史・文化を次世代に伝えたい」と語っている。